

第7回鳥栖市学校給食評価委員会〔議事要旨〕

議 事 概 要

委員会の目的

当委員会は、「鳥栖市学校給食基本理念・基本計画（初稿）」を評価することを目的としています。

委員出席状況紹介

井原委員、牛嶋委員、江口委員、久間委員、徳井委員、櫛崎委員、三成委員の7名

第7回検討委員会での審議事項

- 1 鳥栖市学校給食のあり方評価委員会答申について
- 2 学校給食の担い手のあり方について

委員会の今後の予定

8回の委員会を開催し、平成23年9月を目標に、「鳥栖市学校給食基本理念・基本計画（初稿）」の評価を行い、市に報告します。

議 事 要 旨

- 1 日 時 : 平成 23 年 9 月 14 日 (水) 午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分
2 場 所 : 鳥栖市役所 3 階大会議室
3 出席者
〔委 員〕 : 井原委員、牛嶋委員、江口委員、久間委員、徳井委員、檜崎委員、三成委員
〔鳥栖市〕 権藤教育部長
〔事務局〕 尼寺教育部次長兼総務課長、石橋総合政策課長ほか
-

4 議事要旨 :

委員長

今回の評価委員会で、鳥栖市に対して評価委員会からの答申を行います。
そこで本日は、前半で評価委員会の答申イメージについて意見交換を行いたいと思います。
後半は、まだ議論していない担い手のあり方について意見交換を行いたいと思います。
まず、前回の会議のとりまとめについて事務局から説明をお願いします。

事務局

第 5 回の会議のまとめを事務局で行うことになっていました。委員長と相談し、本日議題となっている「評価委員会からの答申」を整理する中で、第 5 回のとりまとめも盛り込んで行わせていただいています。

委員長

本日の議題である「評価委員会からの答申」を意見交換する中で、第 5 回の会議のまとめも合わせて行うという整理でよろしいですか？
また、本日の議題 2 「学校給食の担い手のあり方」についての意見についても、最終的な評価答申に盛り込みたいと思っています。

(委員了承)

(1) 議事 鳥栖市学校給食のあり方評価委員会答申について

委員長

これまでの評価委員会での意見交換を踏まえての評価答申になると思います。
まず、資料 1 について事務局から説明をお願いします。

事務局 「資料 1」に沿って説明

委員長

質問等ありますか？

委員

学校という言葉はよく出てきますが、「鳥栖市」という言葉が出てきません。学校だけでなく鳥栖市も積極的に関わるべきだと思います。

事務局

資料1の「学校・行政のあるべき姿」で、「子どもたちの現状や課題を知るためのデータ収集の必要性」や、「関係者による推進体制を整えることの必要性」を記述しています。この2点について、市がコーディネートしたり議論する場を設けたりすることが必要だと考えています。

委員

食育については、鳥栖市の食育推進計画を上位計画として、それに基づいて学校または、学校給食の果たすべき役割ということで、行われるべきではないのではないのでしょうか。

事務局

「鳥栖市食育推進計画」では、「学校で食育を推進する」としていますので、これに基づき、学校での食育を推進するという整理です。

委員

「基本的な事項」の部分ですが、「鳥栖市」の子どもたちが心身ともに健康に育つことが目的なのだから、「鳥栖市」という言葉を入れてはどうでしょうか。また、2点目に、「現在の日本の食を取巻く環境も変化していること」も加えてはどうでしょうか。

「学校・行政のあるべき姿」とまとめられていますが、学校の役割、行政の役割ときちんと記述した方がいいのではないのでしょうか。

食育は地域も巻き込んで行うべきということを含んではいかがでしょうか。

また、データ収集の記述がありますが、これは、国の第二次食育推進基本計画に用いられているデータを参考にされた方が評価しやすいと思います。

委員

給食のあり方についての答申なのか、食育のあり方についての答申なのか分かりにくく思います。食育の視点で学校給食を考えるのかといったことについてうまく整理されていないのではないのでしょうか。

委員

学校給食に対して、小学校がどのように考えてあるのかがよく見えません。評価委員会が立ち上がったから、学校から意見など届いていますか

事務局

意見等は特にいたっていません。

委員

初稿は、衛生安全の面から、ハード整備が必要ということを発端に考えられています。初稿の出発点と答申がずれているのではないですか？

事務局

市で初稿を書いた時には気付かなかった「学校給食の役割を考えるべき」という視点について気付かせていただいたと思っています。

委員

①鳥栖市の子どもたちが安全・安心を考慮した給食を食べるという環境が不十分な点、②食育が不十分な点、この2点を合わせて学校給食どうなのかとうことであり、学校教育現場の声を反映するべきです。

事務局

学校給食をどうするべきだ、という点については、資料1にもあります「関係者による推進体制」の中で意見交換するイメージで捉えています。

委員

給食センターで食育はどうするべきだという意見交換を行ったと思います。その議論をまとめてはいかがでしょうか。その前に、施設をどうするかという内容が必要ではないでしょうか。

委員

学校の子どもである前に、家庭の子どもであり、鳥栖市の子どもです。家庭や地域で食育にどう関わるのか、また問題点は何か、そういった視点も盛り込んではどうでしょうか。

事務局

これまでのご意見から、まずは衛生管理面の内容が先で、次が食育についての内容ということでしょうか。

委員

安全な給食と食育と両方やっていくということが必要です。そして、鳥栖市の子どもなのだから、みんなで考えるべきということではないでしょうか。

委員

食育の議論が不十分だと気付いた点や、組織づくりの必要性、組織のメンバーといった情報は資料1に載っているの柱はこれでいいのではないのでしょうか。まず、学校給食の運営をどうすべきか、その議論をはじめにもってきてはどうでしょうか。

委員長

色々なご意見をいただきましたが、本日のご意見も含めて、委員長の方で最終答申案をまとめたいと思います。しかし最終答申案については、委員の皆さまの合意いただく必要があります。そこで、事前に委員の皆様にご説明等にお伺いしたいと思います。こうした整理でよろしいでしょうか？

(委員了承)

(2) 議事 学校給食の担い手のあり方について

委員長

意見交換に入る前に、事務局から資料2の説明をお願いします。

事務局

資料2について説明

委員長

他自治体の給食センターの視察も行いましたので、感想含めご意見ををお願いします。

委員

大分市の施設は10,000食規模の施設で、調理や配送は民間委託で実施されていました。調理員の方も50名以上いらっしゃって、障害者枠等の採用も実施されていましたし、配送車も15台配置されていました。食育などに関する研修もされているとのことでしたが、工場のようなイメージを持ちました。

基山町の施設は1,700食を町の直営で運営されていました。基山小学校に隣接し建設された立地条件、自校方式の時に勤務されていた各三校の調理人さん全てを給食センターに採用されるなど暖かさを感じました。

委員

鳥栖の給食室を視察したときに、調理員のみなさんは汗びっしょりで、大変な現場だと思いました。しかし、大分市でも基山町でも、給食センターでは食の安全が設備面で確保されているため、調理員の方も働きやすそうだと感じました。

センター化のメリットとしては、給食の質の向上、働きやすい環境になること、衛生面での安全が施設面で確保されることが上げられると思います。また地産地消を心がけてありました。

委員

大分市の施設は、衛生・安全面では学校給食衛生管理基準を満たす立派な施設でした。また、調理を民間委託されていましたが、委託会社の正社員の方は全員、栄養士や調理士の資格を持っていらっしゃいました。このことから、調理の面でも安全・安心を感じることができました。センターに勤務する市の学校栄養職員は、調理の安全管理面の負担が軽減され、余力を学校現場における食育に振り向けておられるようでした。

委員

鳥栖市の学校給食における食育がどうあるべきかが定まらないと、鳥栖市の学校給食をどんな人が担っていくべきかという話はできないように思うのですが、どうでしょうか。

委員長

鳥栖市の学校給食の担い手について具体的に話すことはできないと思いますが、基本的に求められる担い手像といったことについて話せればと思っています。

委員

視察して感じたのは、栄養教諭や学校栄養職員の方は、食育を実践されながら、調理現場の指導もされていました。栄養教諭の役割などを考えると、食に関する指導全般のマネジメント力が必要だと感じました。

委員

鳥栖市の食育の考え方を、学校長をはじめとする小学校現場の方に理解していただくことが大切です。校長のリーダーシップの下、栄養教諭などがコーディネーターとして関係者と連携し実践していくことが必要です。

栄養教諭の役割は、法律等できちんと定められており、食に関して問題がある子どもへの個別指導や食育のコーディネーターの役割があります。この役割に徹することができる環境が必要です。ですから調理員も食育を実践していくべきだと思います。それには資格を持っている、資格を取るといこともポイントの1つです。

また、現在、調理員さんたちの研修も実施されていると思いますが、衛生面などの研修だけでなく、食育指導の研修なども必要ではないでしょうか。

また、資料2に「手作り給食の意義について」とあります。手作り給食を行うことは大事なことです。が、「学校給食はどうあるべきか」ということが一番にあって、その考えの下に、地産地消の考え方や手作り給食の考え方があります。

事務局

「子ども達にどう育ててほしいかを考えることが大事」とのご意見をいただいたことで、「手作り給食の意義」についても、もう一度考えなおすことが必要だと考えました。そのため、本日の議題にあげさせていただきました。

委員

手作りは、形や見栄えは悪くとも、本物の料理を子ども達に味わってほしいという思いから実施されているという話を聞きました。また、子どもたちが学校給食に寄せる信頼を培っているという話も聞きました。

委員

安全安心な食を提供することが基本です。センター化で施設面での安全を確保し、限られた時間内でどこまで手作りするのか、といったことについて、献立委員会などで検討するべきだと思います。

委員

基山町の給食センターは、基山小学校に隣接しており、基山中学校は隣にあります。基山小、若基小、基山中の三校に給食を提供されていますが、子どもたちに給食を作っている人の顔が見えないと残菜が多いのではないかと感じていました。しかし、給食センターから離れた場所にある若基小でも、給食センターに隣接する基山小も残菜は変わらないという話を聞いて、ショックを受けました。

子どもたちが作る人に感謝の気持ちを持って残さず食べることは大切だと思います。私は子どもたちに給食を作る人への感謝の気持ちを育んでほしいと思いますので、ぜひ、給食に携わる人と子どもたちとの顔の見える関係を築いてほしいと思います。

委員

食育の一環で、生産者をゲストティーチャーとして招いたり、栄養士や調理員と一緒に食事をするなど、いろいろな方法があります。

委員

現在は、野菜を食べない子どもが多いと感じます。それを見ると、家庭での食育が大事だと感じます。

また、何でも食べる子どもは精神的にもしっかりしています。やはり中学校での完全給食の実施も必要だと感じました。

委員

鳥栖市の学校給食の担い手に求められるものという議論とともに、担い手が何を求めているのかという議論も必要です。というのは、私達が行った福岡県での調査では、現場の栄養教諭は、まだ制度が新しいためどのような活動をしていけばいいのか暗中模索で、常に新しい情報を求めていることが判明しました。このように現場の活動を支援していく取り組みは非常に大切になってきますから、今後行政もその取り組みについて検討してほしいと思います。

委員長

色々な意見が出ましたが、そろそろ最後のご意見をいただきたいと思います。

(意見等なし)

委員長

本日の意見も加味して、最終の答申案を作成したいと思います。

案を作成後は、委員の皆様にご説明し合意を図っていきたく思いますので、よろしくお願ひいたします。

(委員了承)